

# 救援物資・ボランティア

## 県や社協、募集開始

東日本大震災の被災地支援で、県や県社会福祉協議会は18日、救援物資の募集やボランティアの受け付けを始めた。一方で、現地への交通網が回復せず燃料不足が深刻なため、「個人的な支援活動は被災地の迷惑になる場合もあり、募金以外の支援は行政や関係機関を通してもらいたい」と呼びかけている。

## 個人的支援「注意を」

震災対策本部が受け付けているのは、「保存がきく食料」「水」「毛布」「子供用おむつ」「大人用おむつ」の5種類。業務用スニーカーなどで売られている箱詰めの商品に限る。食料品や日用品の品薄状態が続く中、「支援のために新たに買う必要はない」としている。

支援物資を限定するのは、被災地側の仕分け作業を容易にするためだ。不意に様々な物資が届くと、避難所や集積場所では必要な物まで積み分け、すぐに必要なものを仕分け作業に手間取るといふ。

受付場所は県中央防災基地(川島町上落)、熊谷スポーツ文化公園管理事務所(熊谷市上川上)の2カ所。土曜日も

「現地の状況に即した支援を」  
中越地震ボランティア  
被災地のボランティアは、現地の状況に十分に把握してから。04年の新潟県中越地震ボランティアを経験した、熊谷市の自営業の男性(50)は当時を振り返って、その助

先の情報には、HP (<http://www.fukushi-saitama.or.jp/saitama03/volunteer/>)で最新情報を受け付けを始めた。米や水、保存食、粉ミルク、生活雑貨など。未使用品に限る。受付場所は同市原馬の旧市立女子高校第一体育館。午前9時から午後4時まで。期間は設けず当面は土日祝日も。問い合わせは同市産業課(048-524-1111)へ。

### 自治体・団体の動き

#### 熊谷市

熊谷市は18日、市民からの支援物資の受け付けを始め

#### 深谷市

深谷市は18日、救援物資の受け付けを始めた。食料、水、毛布、子ども大人用のおむつ、未使用品に限る。

受付場所は市民体育館(同市住吉町)。午前9時から午後4時。土日祝日も受け付けを出せない状態という。そのため、急ぎよ、在庫を販売し、チャリティーにすることを決めた。

#### 戸田市

災害時の応援協定を結ぶ福島県戸田市から要請を受け、戸田市は18日、4トラック2台分の救援物資を送った。

飲料水、トイレレットペーパー、紙おむつ、粉ミルク、肌着など。民間病院、戸田鶴艇組合などが協力した。

震度6強を記録した白河市は道路損壊や家屋倒壊、断水などの被害が発生。18日現在、14人が死亡している。



義援金として野菜代を払う利用者(右)。大勢が詰めかけたさいたま市岩槻区の岩槻セットセンター

## 停電で宅配できなかった野菜 売り上げを義援金に

### 岩槻 生協関連の子会社

生協の宅配「パルシステム」の農産物を扱うジーピーエス(さいたま市岩槻区)は18日、計画停電の影響で、宅配できなかった野菜や果物を地元で販売し、売上金を義援金にするチャリティーイベントを開催した。近くの住民らが大勢駆けつけ、3時間で約100万円が集まった。1万円をカンパしたり、後から義援金だけを持参したりした人もいた(右)。

### 狭小・東入間JC

狭小青年会議所は19日午前9時から午後4時まで、狭小市役所駐車場で支援物資を受け付ける。未開封の米や調味料の水、軍手、スコップ、長靴など。東入間青年会議所は同日午前10時から午後1時、さしみ野市役所第3駐車場。朝霞青年会議所は同日午前9時から11時、志木市立斎岡第三小で。

### 川越の舟下り中止

小江戸サミットも川越市は、江戸時代の舟運を再現するとして29日に予定していた「新河岸川舟下り」の中止を決めた。4月2日に予定されていた東京・日本橋の架橋100周年記念事業「日

## 福島第一原発立地の双葉町 町機能、アリーナ避難 町長含め町民1800人

東京電力福島第一原発の一部が立地する福島県双葉町が、災害対策本部で町の機能を「さいたまスーパーアリーナ」(さいたま市中央区)に移す。町から要請を受けた埼玉県が18日、明らかにした。アリーナはすでに福島県などの避難者を受け入れている。

埼玉県によると、井戸川克隆町長や町職員らを含め、現在、福島県川俣町の避難所6カ所に分かれて滞在している町民約1800人を受け入れ

双葉町では、19日に町民約6900人のうち2200人が川俣町に避難したが、原発事故の深刻化を受け、県外への再避難を決めた。町は、第1陣として、埼玉県バス協会の協力を得てバス20台で迎えに行き、千人が19日午後アリーナに到着する予定。川俣町体育館に置かれた現在の双葉町災害対策本部による。19日には井戸川町長も同行。総務課の機能も移す。

県によると、アリーナが最大5千人収容できると報道で知った双葉町側から、受け入れ要請があった。県は町の機能の支援策を検討している。

### 各自自治体も避難所設置

各自自治体の避難所設置も相次いでいる。18日午後5時から決まった主な避難所は次の通り。問い合わせは各市役所・町役場へ。

さいたま市 西区西部文化センターなど3カ所(900人) 川口市 市西スポーツセンター(250人)。市内で74人を受け入れ、戸田市 市文化会館など4カ所(1200人) 川崎市 農業ふれあいセンターなど(555人) さいたま市 老人福祉センター(80人) 東松山市 市総合福祉センターなど2カ所(76人、1カ月程度) 鶴岡市 市老人福祉センター(70人、31日まで) 熊谷市 旧市立女子高第2体育館(200人) 戸田市 (200人) 福士町 ターナー(200人) 深谷市 高齢者、青少年施設(100人) 秩父市 秩父コミュニティセンター(240人) さいたま市 老人福祉センターなど4カ所(320人)。約20人が利用中、春日部市 福祉施設(84人)。約15人が利

## 避難所の小学校でお手伝い

### 朝日小学生新聞 リポーターから

震度6弱を記録した仙台市泉区に住む山田萌結さん(6年)は、自宅も被災したが、地震発生当日の12日から、避難所になっている小学校に出かけてボランティアを始めた。避難している人たちに困窮しているところがないか聞きながら、お湯やバナナなどを配っていた。

学校は情報交換の場でもある。この店が開いている、何が売られているか、給水の場所はどこか。「友だちと話すと気持ちが和らぐような感じがします。慌ただしい日々の中で、と夜空を見上げると、月と星がいつも以上にキラキラと輝いていた。2月とは思わなかった。でも地震によってこんな風景が見られるなんて、皮肉で悲しい」

18日の卒業式は延期され



山田萌結さん(6年)は、自宅も被災したが、地震発生当日の12日から、避難所になっている小学校に出かけてボランティアを始めた。避難している人たちに困窮しているところがないか聞きながら、お湯やバナナなどを配っていた。